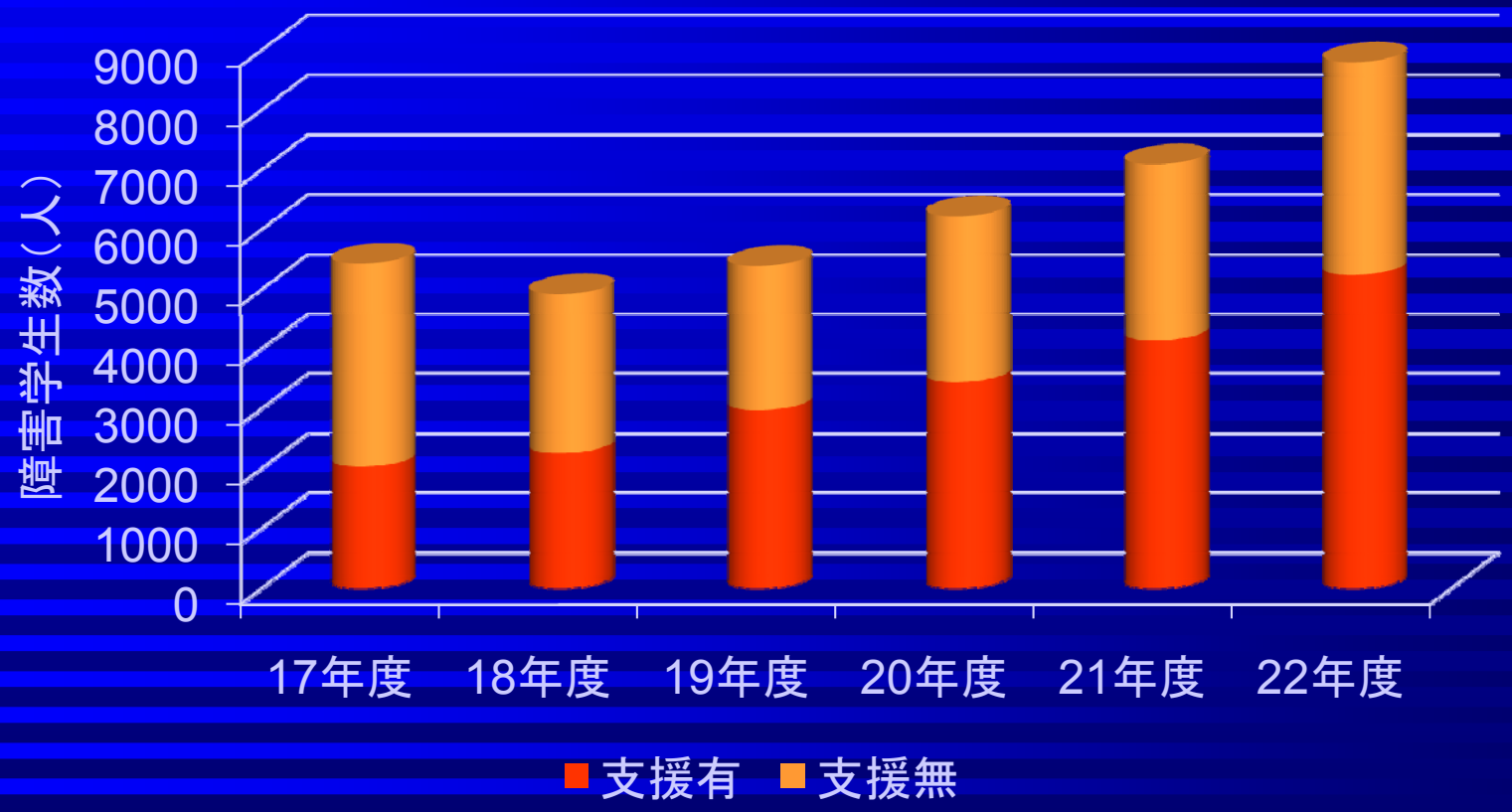
障害学生支援における
管理職と実務担当者の役割分担

筑波技術大学
石田久之

障害学生在籍状況


障害学生数（人）
9000
8000
7000
6000
5000
4000
3000
2000
1000
0
17年度
18年度
19年度
20年度
21年度
22年度
支援有
支援無

支援体制

・支援委員会

・保健管理センター
・学生相談室

・地域

・支援センター
・支援担当職員

・教員

・障害学生

・支援学生

(分かりやすい授業)

(成長・学び)

支援体制（改訂版）

・大学執行部

・管理職

・保健管理センター
・学生相談室

・地域

・実務担当者

・教員

・障害学生

・支援学生

(分かりやすい授業)

(成長・学び)

管理職の四つのタイプ

- 管・実分離
  - 信頼・相談型
  - 感情的介入型
  - 丸投げ型
- 管・実兼務
  - 動きたがり屋型
    - 大学の体制が未整備の場合もある

＊情報収集に長けている

餅は餅屋に

- 学生対応　-　実務担当者
- 組織間の橋渡し　-　管理職
  - 支援室と学生相談室、医務室、カウンセラー
  - 学生情報の共有
- 支援業務のPR
  - 学生・教職員に　-　実務担当者
  - 大学執行部に　-　管理職

更にこんな意見も

- 管理職の考え方、行動力次第で、支援の推進力は大きく左右される
- 実務担当者が実力を発揮しやすいように環境を整備していくのが管理職
- 現場担当者と同じレベルで、右往左往しないことが重要で、同じ学生に対しても、異なった視点があるべき

公平で安定した支援のために

- 全学で一つの体制(or 連合体)
  - 学部間の対応の違いをなくす
- 一人・一部署で考えない
  - 学内連携の重要さ
- ノウハウの蓄積とその引き継ぎ
  - 事業内容のマニュアル化
  - 人の入れ替わりを常に想定

障害学生の修学支援に何をみるのか

障害学生に分かりやすい授業
（資料配布，丁寧で明確な説明）

↓

全ての学生に分かりやすい授業

障害学生に安全なキャンパス
（明るいキャンパス，危険個所の明示）

↓

全ての学生、教職員に安全なキャンパス

大学改革の一つの側面